

Ⅳ. 大学が独自に設定した基準による自己評価

基準 A. 社会連携

A-1. 大学が持っている物的・人的資源の社会への提供

A-1-① 社会貢献を目的とする学生活動

A-1-② 大学施設の開放、公開講座等、大学が持っている物的・人的資源の社会への提供

(1) A-1 の自己判定

「基準項目 A-1 を満たしている。」

(2) A-1 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

A-1-① 社会貢献を目的とする学生活動

本学は所在する大阪府東大阪市と平成 27（2015）年 9 月 16 日に「東大阪市と大阪樟蔭女子大学との連携・協力に関する包括協定書」を締結し【資料 A-1-1】、定期的に自治体関係者などとの協議の場を設け、自治体及び地域住民からの社会的ニーズ・要請に応えるべく、継続的かつ発展的な連携・協働を推進してきた。特に教育的観点から、学生が主体となり地域課題に取り組むことができる活動に焦点を絞り、協働事業として計画・実施してきた。また、所在する東大阪市だけではなく、活動の場を周辺地域にも広げ、奈良県では「香芝市と大阪樟蔭女子大学との連携協力に関する協定書」（平成 19（2007）年 4 月 6 日）【資料 A-1-2】、大阪府では「門真市と大阪樟蔭女子大学との連携に関する協定書」（平成 26（2014）年 2 月 7 日）【資料 A-1-3】、和歌山県では「大学のあるさと」に関する協定書（かつらぎ町）（平成 28（2016）年 7 月 1 日）【資料 A-1-4】などの協定に基づき、それぞれの地域でも活動を続けてきた。

これらの学生の主体的な活動（イキ×ラボ・チャレンジプロジェクト）を令和 3（2021）年度からは SDGs と結び付け、SDGs の意義と必要性を理解するとともに、SDGs に資する取り組みとして位置づけている【資料 A-1-5】。

これまで実施してきた事業としては次のようなものがある。

ア 東大阪市との連携事業・・・「Re：Shoin きずなとれいる」「キャンドルナイトプロジェクト」

「Re：Shoin きずなとれいる」は健康栄養学科の学生が企画したプロジェクトであり、令和 3（2021）年度に大学における臨床栄養学の学びを活かした地域在住高齢者の健康の維持・増進を目指す取り組みとして、地域包括支援センターヴェルディ八戸ノ里と連携し、地域在住高齢者及びそのご家族を対象とした以下の 3 つのイベントを実施した。

- ・ 付近の公園に高齢者やその家族と共に出かけ、風景や家族の写真を撮影したり、昔ながらの遊びを行ったりするイベント【資料 A-1-6】
- ・ 高齢者が安全に家族や友達とつながるための SNS 入門セミナー【資料 A-1-7】
- ・ 加齢とともに進行する口腔の機能低下（オーラルフレイル）を予防する健康教室【資料 A-1-8】

「キャンドルナイトプロジェクト」は、授業で学んだ SDGs 17 ターゲットのエネルギー問題をきっかけに、廃油（食用油）から自分たちでキャンドルをつくり、参加者にリサイ

クルについて考えてもらう機会を提供するなどの活動をしており、令和 3（2021）年度は東大阪市美術センターで開催される「3 大学×東大阪市民美術センター連携プロジェクト」において、廃食用油から作成したキャンドルを使って、キャンドルホルダーをデザインしてオブジェを作成したり、浜田化学株式会社が廃食用油から作ったハンドソープを展示したりしてリサイクルについて紹介する活動を行った【資料 A-1-9】。

イ 周辺地域との連携事業・・・「グリムプロジェクト」「CPV プロジェクト」

「グリムプロジェクト」は、児童教育学科の学生を中心に、絵本の読み聞かせやペーパースーツ（ペーパーパペットシアター）により、子どもたちに絵本の楽しさを伝える活動を平成 22（2010）年度から続けてきた。当初、児童教育学科が所在した香芝市などの図書館で活動を開始し、その後、東大阪市や門真市、かつらぎ町に活動の場を広げており、令和 3（2021）年度は門真市立図書館で以下のプログラムを実施した【資料 A-1-10】。

- ・ えほんタイム
- ・ てあそび、おおがたえほん
- ・ ペーパースーツ

「CPV プロジェクト」は、大阪府警察本部サイバー犯罪対策課と連携し、大阪府内の小学校高学年を対象としたインターネットや SNS の安全な使い方などに関するサイバー防犯教室を行っており、令和 3（2021）年度は、河南町立近つ飛鳥小学校の 4～6 年生、大阪市内立南小学校の 6 年生、松原西小学校 6 年生を対象にオンラインでサイバー防犯教室を実施した【資料 A-1-11】。

A-1-② 大学施設の開放、公開講座等、大学が持っている物的・人的資源の社会への提供

大学の教育研究活動を地域に還元すべく、幅広いジャンルにわたる公開講座、公開講演会などを開催している【資料 A-1-12】。

また、本学の卒業生であり芥川賞作家である田辺聖子氏の偉業を称えるべく「田辺聖子文学館」を設置し、田辺聖子氏の業績を幅広く地域に紹介しており、当館への来館者は、平成 19（2007）年度から延べ 100,104 人を数える【資料 A-1-13】。

さらに、令和元（2019）年 9 月 30 日に、子どもをはじめ大人にとっても豊かな心をはぐくむ絵本の可能性やその活用法を広く地域社会に普及させるとともに、絵本に関する研究や指導者を養成することを目的として「しょういん子育て絵本館」を開設した。絵本館には 6,000 冊超の絵本を所蔵し、館内では、子ども達にも手が届きやすいように本棚に工夫を凝らして、子ども達がのびのびと安心して絵本の世界を楽しむことができるように、キッズ専用テーブル・イスを設置し、親子トイレや授乳室・ベビーベッドスペースを設け、快適な環境としている【資料 A-1-14】。

ア くすのき地域協創センター

地域連携を通じた社会貢献活動を強化すべく、本学は地域連携を主要な使命の一つと位置づけ、地域が抱える課題に対して大学が積極的に関与していくこととしている。本方針にもとづき、このような地域連携への取り組みを推進するために「くすのき地域協創センター」を平成 26（2014）年 6 月に設置した。「くすのき地域協創センター」では、教職員や学生の地域連携の窓口として、本学が所在する東大阪市をはじめ、周辺自治体のニーズを受け止め、教職員や学生の地域志向の強化を図っている。さらには、「くすのき地域協創

センター」が取り組んでいる地域における学生の主体的な活動（イキ×ラボ・チャレンジプロジェクト）を、令和 3（2021）年度から SDGs に資する取り組みとして位置づけ、SDGs の意義と必要性の理解を深めるための勉強会を定期的に行っている【資料 A-1-15】。

イ カウンセリングセンター

大学院人間科学研究科臨床心理学専攻附属施設であるカウンセリングセンターは、心理臨床相談の実施による地域へのサービス、心理臨床に関する大学院学生の教育・訓練及び臨床心理学に関する研究とその推進を目的とし、平成 13（2001）年に関屋キャンパスに設置された。センターが所在する奈良県香芝市において、地域の子どもの発達に係る相談や、思春期の対人関係の相談、大人の職場や家族関係の日常生活の相談などに応え、同時に大学院生の教育・訓練を行ってきた。平成 27（2015）年の大学キャンパス統合を機に、大阪府東大阪市に移転した後も同様に、変化が速く価値観が多様となった現代社会の中で生活する人たちのこころの様々な問題を解決するサポートができるようにカウンセリングセンターを運営している【資料 A-1-16】。

ウ くすのき健康栄養センター

本学では、健康栄養学部及び大学院人間科学研究科人間栄養学専攻において、栄養面から人々の健康保持・増進に貢献する人材を広く社会に輩出している。栄養教育機関の使命としてさらなる地域貢献を重要な課題と捉え、栄養関連の専門家教育・育成に関するアカデミックなスキルを広く一般に提供するとともに、地域の方々の健康的な食生活を支援し、地域活性化への原動力となる“元気”を支えることを目的に大阪樟蔭女子大学大学院人間科学研究科人間栄養学専攻附属の健康栄養センターとして「くすのき健康栄養センター」を平成 30（2018）年 4 月に開設した。

具体的な活動としては「くすのき健康栄養センター」を、地域連携と健康・栄養の教育活動拠点とし、地域の方々に食事相談や食育相談及びライフステージ別の料理教室や健康的な食べ方のセミナーなどを開催している。特に近年、様々な栄養情報が錯綜し混乱を招いている傾向があり、正しい健康に関する食の情報発信と、地域住民の方が安心して楽しめる食生活を提案している【資料 A-1-17】。

(3)A-1 の改善・向上方策（将来計画）

本学建学の精神の下、本学の特質を生かした教育研究活動により地域社会に有益な人材を育成するとともに、社会からの要請に応え、調査・研究及び学生の实践活动などを通して社会との連携及び協力を推進する。さらに、令和 3（2021）年度から、地域における学生の主体的な活動（イキ×ラボ・チャレンジプロジェクト）を SDGs と結び付け、SDGs の意義と必要性を理解するとともに、SDGs に資する取り組みとして位置づけている。今後は大学に所属する教職員、学生それぞれが SDGs に係る学びを深めるため SDGs に係る勉強会などを定期的に行い、活動を充実させるための環境を整えていくことが課題となる。

コロナ禍において、感染拡大を防止するための様々な抑制は、社会的・経済的のみならず、心理的にも人々に大きく影響し、また今後も長く影響し続けることが予測されるため、カウンセリングセンターでは、よりいっそうの地域支援に積極的に取り組む。

くすのき健康栄養センターでは、今後、東大阪市在住の国民健康保険加入者の方々への特定保健指導の拡大や、コロナ禍の副産物として市民権を得た“オンライン”を最大限活用

した栄養食事指導の推進、こちらから地域に伺う「サテライトくすのき」、地域住民の皆様を対象とした健康セミナーやよろず相談を実施するとともに、大学生や大学院生の早期体験実習の場所として、また、専門職（栄養士・管理栄養士）の学び直しや交流の場も積極的に作っていく。

※エビデンス集・資料編

- 【資料 A-1-1】 東大阪市と大阪樟蔭女子大学との連携・協力に関する包括協定書
- 【資料 A-1-2】 香芝市と大阪樟蔭女子大学との連携協力に関する協定書
- 【資料 A-1-3】 門真市と大阪樟蔭女子大学との連携に関する協定書
- 【資料 A-1-4】 「大学のふるさと」に関する協定書（かつらぎ町・和歌山県）
- 【資料 A-1-5】 2021 イキ×ラボチャレンジプロジェクト応募書類一式、マニュアル
- 【資料 A-1-6】 Re : Shoin きずなとれいるチラシ（一緒に外に出る一步を踏み出しませんか？）
- 【資料 A-1-7】 Re : Shoin きずなとれいるチラシ（外に出ないから会えない・・・それって本当？）
- 【資料 A-1-8】 Re : Shoin きずなとれいるチラシ（ご存じですか？オーラルフレイル！）
- 【資料 A-1-9】 キャンドルナイトプロジェクト（ホームページ）
- 【資料 A-1-10】 グリム絵本館チラシ（～秋だ！絵本だ！楽しもう！～）
- 【資料 A-1-11】 CPV プロジェクト（小学生のためのネット・SNS 安全教室）（ホームページ）
- 【資料 A-1-12】 2022 年度春期公開講座パンフレット
- 【資料 A-1-13】 田辺聖子文学館 来館者数
- 【資料 A-1-14】 しょういん子育て絵本館リーフレット
- 【資料 A-1-15】 イキ×ラボチャレンジプロジェクト SDGs 勉強会（ホームページ）
- 【資料 A-1-16】 カウンセリングセンター面接回数
- 【資料 A-1-17】 2021 年度くすのき健康栄養センター活動報告

【基準 A の自己評価】

本学は大正 7（1918）年に設立以来、内容の充実した質の高い女子教育と地域に貢献する女性の育成に一貫して取り組み、平成 29（2017）年には創立 100 年を迎え、新たな 100 年への歩みを始めている。本学は女子教育理念の再構築とともに、教育研究活動を通じてのさらなる地域貢献が重要であると捉え、「職場・家庭・地域社会において人間関係の要となる」人材の育成を掲げ、地域社会の中で活躍できる女性の育成を本学教育の大きな柱として挙げている。

これまでも、平成 8（1996）年度から東大阪市と市内・周辺にある大学との間で設置された「大学連絡協議会」に参画し、大学連絡協議会を通じて連携・協力関係を地道に構築してきた。さらには、東大阪市、東大阪市教育委員会などの行政や NPO などと、まちづくりのための様々な取り組み、各種講座や研修会の講師、ボランティアなどで手を携えてきた。

本学が所在する大阪府東大阪市を含め、周辺自治体においては高齢化や少子化にともな

い、子ども・子育て支援や食育の推進、学力向上・学校支援の推進、教職員研修の充実などが課題としてあげられている。これらについて、子育てやメンタルヘルスのサポートでは児童教育学部やカウンセリングセンターが、食育や健康管理では健康栄養学部やくすのき健康栄養センターが課題解決に貢献できる。さらに、学芸学部が幅広い分野の学科で構成されていることから、大学全体で地域の活性化や歴史を活かしたまちづくりといったさまざまな地域貢献が可能であり、在学生にとっては、キャンパスでの学びを、地域社会の中で積極的に活動することにより、地域にとって大きなチカラとなれる。

以上のような点から、基準 A の評価項目を満たしていると判断する。